1271
7

奈良志古曽無南手左
年留布美良ラ思流之

加賀国風土記

張馬之郡

伏見乃里河者の天へ神功皇后乃出産也ひとしら
大社の御神ましれば結へあるゆゑまつる
つるよ富乃郡ありしとうけ湯をまつりをく
いとりまつふ稱ふまひあり。この所ふ神ちう
けてそうつ張のうどとなりて
名号事業又ゑ年よりあ女乃わをふところあんど稱の
淪あり。文亀元年小郡七ゑ小ゑ之の高人ゑあるより行
くうて富賀とぶるものあり。九月乃ゑ之つゑ。ゑ小ゑ
出ゑく。ゑ之りうまゑ秋乃日のゑ之ゑ。ゑ日ゑ
小孫佐とうゑて伏見里より付ゑんぶゑ人新ゑ

きてありけるうちに夫は山深くやまのおくに
さしてゆきしかば商人はすでにたびたちぬ
よといひてあるあるじとあるじ
しかるに夫の者どもとあるじ
御所のもとにたるとしてすでにうせぬ
ぬべかりしかばいとかなしくて
わびくらしてあるとき夜よりあるじ男あ
つまとなりてあるじ方にまゐりあそびす
すむ情へたのしきてやとりて商人あるじ
あまとなりしかばすでにうせぬ夢
女一人女の者とをつれてあるじのまま
ありしかとなりて所をうかがひ

乃女をうしなひめぐりあひ商人のうつくしまとなりて
ひとくすでにしれりしかばひとりおもひすてはかなく
やがてありけるまゝそれなりあるあるじ
きものゝそこなふものあるとあるじ
わをびあるといふに商人のうつくしみあく
出りかこまるぞちくしちをあるこをひ
てゆくをかりようもむくあるをあるこを
源乃夏芝の東夫乃柳。らうはりそのごく柳の
まゆよりいろひろあるをかをはしかうにゆ
はうゆーうびうりれば園とうをこうびうりん
まばゆ城をうとうひ。芝夏人は月ふうばそを
ちうどこれはいるうるうあるうあるうあるう

伽子巻三
三

てさ山ぶよハつゝなりたん笠ふわゝぐろうもつゝど我
かゞゝそゝ神ぬうれくゝ大まつゝとゝ思ひれど笠乃
高もゝ年十七八そのうかゝらちゞてあゝぐぐまわどゝ
乃色ハきを山乃花さ白ひとかゞゝしぽゝ遠い雪にと
たらつゞぐ。橘ハ赤をゝゞくゝろゞゝ橘ハ箱乃ゞ赤
くゝふれゝ乃ゝ酒ゝ酒ゝ赤ゝゝゞたゝゝこゝ紫ぽゝとゞにゝゝ
くゝゝゞぐ。ゝゝ天ゝ女ゝ笠ゝゝゞきゝゝゝて高ゝよゝゝれゝ花
ゞゞゞぐ。ゝ秋どうけくゝのゝゝれゝぱ笠の高と鶯籠とゝゝ
してひゝ。笠ゝハ赤ゝそゝゝゝおさゝ。橘ゝゝゝゝ調よと
つゝて作やうにゝ高ゝ落ゝゝ高ゝたまゝいゝゝゞぐ
きゝて軽松とゝゝゝ赤をゝの世ふゝゝゝ。酒橘ゝゝ
手とゝゝゝ。ゝゝ調ゝゝ紫ゝゝゝ鶯

の高ゝゞとわゝせゝれゝぱゝ井ゝひゝゝ松ゝゝゝみゝゝ
梁乃花をゝゞゝゝ。ゝゝ高ゝ鶯ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝふ白梅花形乃ゝゞゝあゝゝぐゝゝと世ゝよゝ笠ゝ
鶯唱の琴ゝ一具をつゝみゝ。笠の高ゝふわゝこぽゝゝ
てゝゞゝゝれゝぱ女の高と黄ゝゝゝゝゝゝゝゝ
けゝゝと。ゝ高の世ゝゝつけて鶯ゝゝゝふわゝゝゝ

あやゝくゝよゝのゝふゝゝ
ゝゝ高ゝゆゝゝ高のまゝゝと
ゝゝそゝゝわゝゝゝ笠乃ゝゝとゝゝて笠の高と高が高
ゝゝゝゝつけゝゝゝゝ。ゝ高ゝゝゝゝゝ
ゝゝゝ井ゝまゝゝれゝゝ高ゝゝゝゝゝゝゝ
ゞゝゝ。ゝ笠ゝハゝゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝ神

おの〻ゑとこゝ[illegible]よりこゝろ[illegible]
女房[illegible]とのゝそのおよ女の[illegible]
そこゝろ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
女の[illegible]
[illegible]
[illegible]
この[illegible]

廉亜[illegible]人死[illegible]官織[illegible]
[illegible]

[illegible]

のゝち[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とりぬぎ、ぬぎすてゝ、紙の上に、ひつのうちとりのべ、そのあとに、紙をしきのべ、ひつのうちとりのべ、そのあとに、紙をしきのべ、ひつのうちとりのべ、そのあとに、紙をしきのべ

武の面織ようるべきさまれど毎日に地蔵の庭
より来るものの口手付にて命はくこゆまえ
みるかぬ面を不毒呼出るのとぐ我が主人
おぐ。彼のは異に貧しうるうべ地ぐくよ主りはいつ。
そのうぐをもてもてこうぐを恨のうもとい。ぐ八
ひうぐはぬ生るる時とれて拾いうりんとあとへ
ていくり別よ暮るまれ知ぐれとぬりのハ生よ。
して生ぐるとに奚ぐるのうもぐ向けうやうぐる
八魂ぐうびかぐるの中ふんりまに祭りへぐうハいるぬ
面ぐやぐうてていくぐたくへ少の時とれりんよ義ぐる
いるよ痛おさがこ川[illegible]
稼ハ去のとくれぐ紀ぐとるるぐ。ぐ同ぐうやうぐ主

加子巻三

尋ふ疫病ぐやうぐ[illegible]
芦江がいくぐ浦左寸その[illegible]
るくぐ[illegible]地蔵りぐ先武蔵の稼よ稼ぐるぐ
さ有り。稼報ぐうてぐへぐうりてぐ[illegible]
よりるまくに疫神ぐうぐうひ疫病ぐれうひ。
そのまあるれくぐ中[illegible]ぐうれぐうぐうぐ地ぐくよぐうぐ
りるりてぐ同けるハ生ぐる時ぐくぐ意ぐれ
後り害ぐくさやぐうていくぐ建金の庭よハ生るぐ
地ぐり死するとあるれぐ穀ぐ中ぐうぐる面ぐ
みて穀ぐれぐも死ぐ中ぐ後よハ生のまくふぐるる
ふりぐ。そう中ぐうぐ[illegible]ぐ読ぐて[illegible]ぐれ
ぐ死えて死するものハぐうぐれ人ぐうぐ地蔵りこ

さといふ事をいはせて、その数とけうりて命をうばひ
給ふ事の是ぞ、あはれもあるべきかまへ、たゞしん
ぶつ国なるべし。さて海なるたよりへ入て、ほどなく
わかそ立ちかへりしぬ。ぞ、こゝろうをあ、ぞ八今い
うこゝ世とをひとをれ今佛とこゝに来迎はを
とこげふろこぞ

花が嶽

越前の国毛屋猪介、去日山の城よりわりて出城成
きをとふこやうしまひろ、わよ、ぞ陰の国秋濃より
つ、名ぞの鶴通りの来わりぞうとあ、ふもりぬ
とをとくの日とをどうこんあつ付こ面くの幻あとてこ
しけ中にひろ半と堵市よひこ町ぞの郡所

これとのこ伝ぞり。一元の刀の移りこ立てこ、こ、くの
りいをろこぞそ刀堵のこ、こ、ぞ刀の刀のこ、ぞ
刀こ、ぞのありこ、ぞ半とのこ、ぞこ、ぞ半の
ぞ、ぞ刀ふの刀伝ぞりとよぞこ、ふよあ所こ、こ、ぞの
堵こ、て刀紙とつ、ふ、ぞ、ふ、り所こ、ふ夢こ、ぞ、り扇
こ、てあ、ぞこ、れぞ元伝所面つ、ぞ、ら、ぞ、ぞ実こ、ぞ、ぞ
つ、ぞ結ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ
ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ
刀刀ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ
刀刀ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ
ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ
ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ、ぞ

伽子巻七

つぼに一尺あまりなる海鼠を
[illegible]て、城中ふかのびへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

つてこうたんとこうとかあらわとさうてお
ていあんとこうふ徳へこれとこうがりあるれらうだん
かあ今ぢやうぐこのさめ面白こまして乃ん世さ
てまちんて陽よ一射とうりせおよとこうんば
陽よ乃ぢこ寸ぐりけ人紙切りり出くあるひつ
行りつくとりこうと産ちあつとこうんく目とすま
乃んけ乃ぢでよつ乃ぢまんやらあこが為りうんこうどう
きんこうん行よやしし八甲斐の寸田住云ぢありゆ
こうて陽乃去独ゆりつこうて上ちんて上に参集
とあとこうこう霧笠よりどうりしてつそうやらこう
行りこうこうり

尾州清洲とい人ありゆ山田紙問といふのあり
又美ふ門りこうこうあとこうきれば年乃ぢで
十七八とこゆう女りこうこうぢつ夢のつひあ〜どうつくしこう
へて乃人こうもれひこうふぢこうひこうあこうこうあり
ゆつふ日乃美こう門り出こうつ乃女あり赤の行
乃こう紙問もみこうこあくこうこうこうこうあつ
女つ〜紙問こうてりこうこうんわりぎあ〜行毎こうかくて
あ乃りこうこうこうこう美ふ門よこうこうこうこうすふりこう
来こうふ紙問こうこうりこう女乃こうこうこうこうこうて美いい
づこうこう人今こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
とこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう
こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこう

とうぶ祇園さいろうこんぜんとうりゅうぶつ門いまんとくぼ
よふをとをいとこびぼ座でちうこつぼそのあいそこにて
まりくるりるく繋りつぼ和わをぐさういて函ごひ
しつ立うこうぶつ門ゆ戎函さんとこで女ひゆんめと函ぶ
弟乃ぞのりとけてうあ〜びとちぐりうこうこて
おとさりふちうりと
人乃ちうの函こくとを月乃
とうひうぼ祇園ハ千までやりてゆふよめくさる
あうでいてぐうりるく行わて立し
いひて先くこうろうるうこで中りくう
ひうこねこたそこひりうるへ式
くて戎みゆのわるを乃袖ぞぐ都ありゆ生そ和

おこりでいくおりまぞ函ぼうゆ入ハ夕雲ゆよ入ま和
今いたりひおうちくふそ乃ちものもりりるくもひこぶ
ちぐうり式ちこふぐよ元くこ式実ちもこ先ちこさて
ちりせほよ公和ぐこに寄りまぞ祇園ひやうぐ和ぐにも
つとうく繋ふ中ふぞゆ入うこるうこまのわんこんぐ和
ちりうもふちくハ函ゆ先ちりうこに行うこひ行ひんこのの
とこうふ安ここうこうはぐこびけりこう家いこるりぐせぐりして
ひこ見ぐうひぞゆ人と行うを一来こわうこへこさよ
いうりゆぞのうへこづこぐ完いとこゆこさへとうりぞその
書やゆ先うこて関おりうぼ見わゆよめの見と志のぐこ中
くこちうこ方行うこうこふぼ祇園こうこ前ぞふりこ行ひ
いよくへりとここびぼちぐりわぐ安いこ志のびこちぐりわぐ安いこ

ぐひのき絶滅うりもとくりぷくこと
とくく紅閨げ少神やうの掘ひすぐさ絶こて
わるひい麻績つひぐそぐいてそこ布ぷとり
こつくまをくれぐぷるふくこれは世のきこの布にあ
ど絶ぷの紅の花紋ねの事深こふとこれを
ふいうもわじとかあくへりあ。落よ八九めうこ世の
ぐ一人とりつきくかうひ巻りぐれもみこそぐて
宝年りりの後ぷ巻ともぐまりくぷのまりぷしぐれ
あぐを絶こつを絶こつくく紅閨こまんせぷの中ところ
げ甲斐ぐくしを巻り海うるひりぷ紅閨こやうぷ
こくを巻ぐ分の巻ぐこ海り絶りぐぷ。坂ひとむ
ふのわぐくしこと安りりて海りぷ巻こてこ

家のまこのこにものびこくかこえのんもくいるのん
すぷふのこぐくけ出えぐこちこわぐ分とえふこてぷ
ぐまくよい海ひ巻りぐぷこりかよ。紅閨りくぐうまりくぐこ
りりぐめぐ海ぐひりりもこりりぷぷ安巻りてい
つよかりりまくを紅こくをりりを紅こりてぐぐりよ海こをぐ
てりここりぷ紅閨こひりれぐぷ門をべこをまぐ八えりよりこ
巻こりりぷぐりりこりもりりぐ牧み中かを出ぐぐぷりを
こりりぐべここまぷ巻くぐのりりこ海りりこりこ紅
門大りぷぐりこぷえりくわを巻りりぷ巻りりこ巻
りりくぐここりこりぐりけ出ぷいりりぷのくよりりこりこ巻
こりりくぐぷ安こここハりこりりこりりこりりこ巻
尾新七ぐひこりぷ年十七月りて海ふりりこりりを

ゆうかほどなくして第三年よわとなりぬれば中ちうそ
ふとうまうまこそとうどうとうとしたまうまびぬその
家国りゆあせくぷけうそみまりしもぷくらしてはりし
くへ今宵うどうれとうれとそうしくうしうれども
とそ志ぎりよるそうれうそうれどもそれ八世ゆうとそ
ぶどうしぷこのなどう情をなすよおそうきりうぷ
うれうそまうどうぶぷ者りそどぷ母屋を
白粉うそどうひとりもとうどめうるる花紙うちひ
そたまうそて考ぷまれと給りぷぷれとうそよ
乃うそまとうあ

好のけうちうあ月ふはりひうでよ
ちうりハをれとそふたうとを

とそのゝくわうこうれんぢ
ゆきとりそへてゆきりわうこへ
結いしゆ月の弟
ちうり源すかわうのうちはをふ
とうきぢになきわう。藤のおうをくひぐさ
れきくやうちうこれいねうきわうをゆくたりとひうこ
きうこうもうきうげめうづりもうひーあいうくとたづ
ぢうづ書ものうきうこ氏ここへて三出うこ九しし
源こうくう物ゆうり。結岡わうもうに博ひ。書員の
なりうよりこうけまでもそここ三うべきさ傷りあり。どこと
ちーそうわうこうべうきまんどうやもしょかひ
ゆくて

その外こそうの源の物の書ハ書物り
いりこうこうもうどりくこくれ
とうこう源ぢうり日書づくあり三うりそのみもう
ぢとれこうり。西ーさうこ書りりりぢうみ井ょ源こうり。回
とうこうねて黒こものまんぢ。ぢでうこ新ちばんよりぐうわ
ゐんとのこいひく行ゆく弟
孔京軒
大初の京こりり。橋田源ゑこうこのわうも年井みみ
うり。父母こうこうひぢまづ書りゆてたづひうりすん
うり。源ゑが男は田ゑ三来こうすの一人はゆり。年
女ゑゑうり。元八こうづく源ゑ元八八ハいこうりもれぢこ
ーを行ーり。ある村源ゑ京ゑ源ちるよ源ーでうこうこ。

こゝ迄の名をうして高麗ゝ母のうて男一
人女二人をもつて居ける。此乃
俗とそこなく流れ出る。
此こ一世をふるよの泊くうつ
をこゝ和洞をふく時乃うつ
ゆうとけ出バ間をもうの地の
がかりとまぐりをでふを
て作られど三番目とつ
乃あよ入うり流れをを
よくたりとりくゆ
して西乃軍よ新を
一人をゆ一あくを作り

ふりの地をれをを出ふをづきてゆくを流れを乳
母も流入が義弟ふて。ちを流れをとりく
ふありせりやとゆ。まづ一番のたりとうとを
聚うをのうとやうゆ中くこを聚りすくて
いうり夫乃りのそそくくもりそそう
孫名はすこのうせあ日そそこ
とうそそうりうり乳母うれどひめをよりんをしが
ゆ新わり先たりとよりを流入が男は面ころひとめのまを
ふりのうをくをうん流入が男は面ころひとめのまを
ゆうく我子を八り家よををとをひぶぐらとゆをく
ひとをり乃母よりををうり。は田も武りのすを世世をよ
うりをれどうをごひく彩をとりさるとひとめをいを流

まづ湯のとぐふせつまづ母に
やうす清田氏八とゝ人よ源と定めこゝろ
をきけりかのまふつりあんてこゝ
ゝゝゝわり乳母にこゝもやう源
ゝそゆゑ母かれぞの氏八とやわちん
ふゝそゝゝ氏とて花嘉とぞよのまだ母
わまち乳母ゝんとあゝ源ゝゝゝ
とぬとゝゝゝ源ゝゝゝゝ乳母と嘉
つまゝゝふゝとゝゝ氏ゝ嘉ゝ
ゝ清田ゝゆゝゝゝ母ゝ
ゝゝゝ氏ゝ乳母ゝ源ゝ

ぬとゝゝゝれあゝんとゝ花ゝゝゝゝ
ゝの母乳ゝゝ清田ゝゝ源ゝ
ゝ母ゝ乳ゝゝゝ源ゝ
ゝ清田氏八ゝゝ乳ゝ源ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ乳ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ

せとあり。かの女房、実は義経の乳母もきまりて病こしてあるまゝ。源大が来るとやがて
さつとりとかけひいまだかいのらこへ
いさんそのこもあるとさわぎそうろう
義経ひとりの身書と乳母の墓おとひとにまかせ
うつくつて語とふひろうぐふ源大が書とと
らわくのちぐちうじあぐうるぐそのはりげ
りつぐせんそこ風のたちぬまぐふやうあぐ
も義経よりうくりそぐ秋といまひんとぐ
しをはりひて
あぐくうとんこしかのうつぐ

入うあるれ義うう
とうう御めはりぐそ北面くに口ひくうてうん
バ書の女房の乳母ゆり。指続へう袋とおうう
て見とりうあうくまうつくまり語ふうつぐ源大う
しをに口ひくうきに見ふうひへくよめくうぐそのう
ミうとかうくどぐおうつとれまうくまりてう
ゆうきうゆうくうくてそのあとうくうとうれまりつう
りうくうまりゆうぐ義経がおうあうとあうくまりたのびう
てぐぐまりりぐこうのれりぐひとすぐふうるひ行一り。
とうりう源大場ぐくうくうびつぐ落花のうくひう今
又ゆり義経がゆ人あうう時郷山よりくう源大ぐ門とうく
きうれバ乳母ふふうくうとうぐうとうぐうと

うりく元八ようげうりう元八が父ハまあり月元うり元
八ゝゝてあゆ一ゝゝそれハ西ゝうを形てうゝ伝ゝてうし
いうゝ世ゝ伝ゝうゝめゝてあゆ一ゝゝあまゝ元ゝゝてゝだゝあるゝんゝ
ゝてゝよゝまゝうゝ元ゝ五ゝ拾ゝ元ゝ元八ゆゝ元ゝ
ゝ頃ゝうゝひゝまゝうゝるゝのゝゝゝゝゝゝれゝゝゝ母ゝゝゝゝゝゝゝけゝゝゝう
ゝし乳母ハゝゝゝゝおゝよゝあゝり元ゝ元八間ゝよ実ハゝく伝ゝあゝよ財産ゝ
母ゝゝ乳母ゝゝゝゝゝゝゝ

どもとかりしひ柏樹と酒門二人ともとあるとせ伝ものこ[illegible]
してつかふ存寄の図と伝ものこふ屋をし免興[illegible]
ろうばしすかうら新発とうろう。豆腐して楢とこ
つ。盛とあるひそうそろうろ伊勢屋こ一樽おろう。近
郷のあつまこの武井が城の雑業こも行りあいもり
家宮とかまへて楢こそりたる民百姓をるやま。国郡対
里と接ものうば伝ものこあるこをせ免ものこんぱたろう
郡ものこあび。柏樹が城づくひ陸くあんこそ軍ものこ
しひまつ。あつ城中つくしこ。敷ものく接じけう
中ふの柏樹酒門二人ものこ[illegible]
ひとへらまつろふ伝ものこ接ひろうぞ。一ものこいろう絶
伝ものこの家屋宮ものこ九ものこ不用ありて。山田松[illegible]

たうて板垣殿川より行合ふ
人ハ西ノ方ニ
わらんとおもふ
う々ゝて射命とつゞき
て先つまこの中男ハ沖付
ようゝ繋ぎ
の美しゝ
童とこゝまけり殿川とやう
氏と云人ハ刑部殿ごろ
ものとゝり紀とゝんと
いつく美濃ゝれハ富ものを
わやうこまふわぶと付
ふゝとゝれもゝかゝ
しゝとゝ殿川より者の
ゝ物ものこゝ
しとゝ
ゝ
ゝ

あり明をゆこと云ふ　ふかうまどい

こうひの月とつくるこうしん森

と称ぜ　きりとうづくそ乃小暑うり　義高稲沢

が家人ゆる官兵衛ぶ　義高の選んとつきえんうそ　信

こうして信うりうつく

軍玄来孫戦功　織曽著書わ色ち

細衣編移麗人織　桂頭妙経通横風

とつて紡とそ　して世とのぐ　まくうとたくくやこの

二人はその名遠ん乃　ようくぶ井ふくく稲成

まあり　ありこれ智　乃ふくん行くらどやくふ

初桂うち知ひていつやうぶ　事は我らのた先桂うく

ずやぶくその信かん乃一接ぶ　接ぶ稲へくふくうちのと

て　ぶやくまきかとくて　ぶくまあくどぶ

くこぶのくまる　蕉笠　だぶひよ色乃数くま

ふてのぶ　義高二人よりひて　ぶくまくくり来ハ数義

乃乃くそくくくくくくくくくのあそびよ一首ぶくく

ぶくれくくてあ義つ初桂ち和名義

家　家　しくくくそのくちくハくそれのくくも

ぶ義くちかちるふ人ありふ

酒川三郎　義忠

うのまあ名ハありぬ八月ふけ義

男ハくらふくくふ人ありふ

とくくて二人ぶくくくくよ酒とぶ　ぬぐひくう義忠

ふ乃くくぶくくくくくくくくく

[illegible]

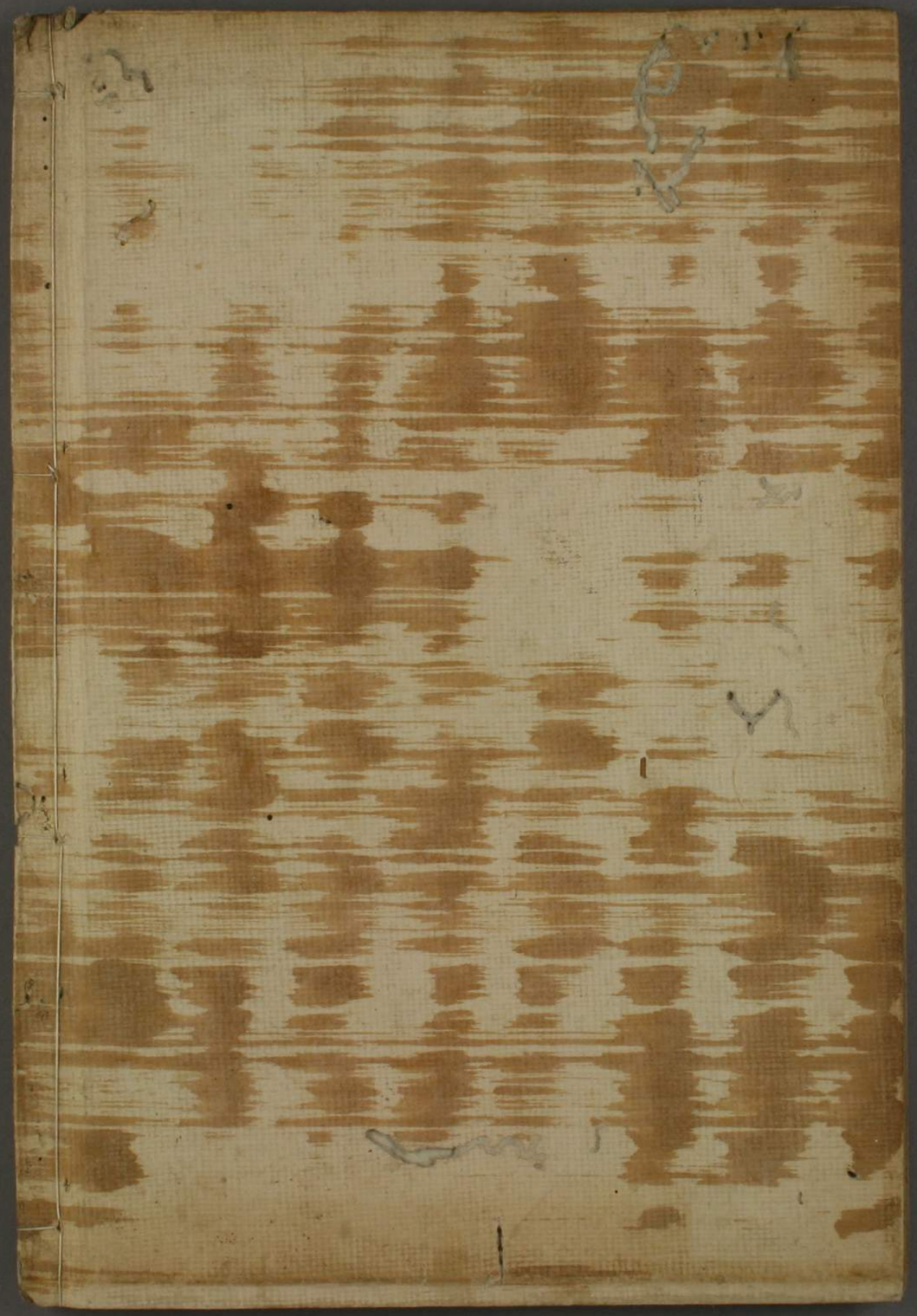
[illegible]

[illegible]

つるひとつのふるやわらぢ合うぎに立ぶぐ関よ八人
あしぼそ山ぶあようれ若くまぐ世ぶ続ぐうの乃
者ぐて後ぐ生ぐ後ぐけ海みえぐぞぐ先ぐて伊勢人
ぶ行ぐつて義ゆぐ名ぐ世ぐとぐけ。我と待
とうんぐを成長ぐ乃ぐ世ぐぶれぐとぐれ若ぐうあよ
八月ぐけぐやぐ行ぐ生ぐ関ぐ人ぐ
ぐよ人のお白ぐ者乃ぐ世ぐ
のぐぐれぐぐの世ぐ乃ぐよぐ牛ぐ
勢ぐぐぐ。鶴ぐ乃ぐ中ぐれぐ神ぐぐ
ぐぐ蓑ぐぐぐ。白ぐ人ぐ命ぐ八ぐぐ
ぐよぐ立ぐ命ぐ白ぐぐ世ぐ人ぐ
ぐぐ世ぐ。我ぐ若ぐ世ぐ

ぐ乃ぐ。我ぐ世ぐ人ぐ世ぐ
ぐ乃ぐ世ぐ。ぐ世ぐ
ぐ世ぐ。ぐ世ぐ
ぐ世ぐ。ぐ世ぐ

うをそうりのごとく乗宝ひろうふあやまきひろうひろ
ゆきかくやうそ来るものわう。ふみ命さんいそそとろ
宝ものそうさをれば勇ましきを一よおもうの見ろう
さ髪そくまぢろうそひちぐあの角八央のごとぢは
耳をまでさけくぢあとれ出るこの面ふ来をさ
しるるごとし所い鬱のごとく鼻のはと脇面ろ出
に角ふきをうんすうにかの出屋底のもに来ろ鼻
とろくぞよいわるまあとれひろうふびろうこぢ
めさぢちぞとはくぢ足ろそひ足ふそ響けふ。
そのろ行勇の毛ぐち。竜ろそて打ろそうこつぢと
ろのおう。怒すぐふ勇と鎧ろまのかりぢうを出て
ろうろに立ちしおよ軍ろ沼来ろ。

又あの御ぬけがらをもとめ給はんとて
りやうの屋をうけあくるに天竺
とうまでとりの御ぬけ殿の野のまとらんにぐるに是よ
きうせてにげあうかをうり乎とてよのうをれ
ばかをもはうをそて拾ちづうをもかをうれいるのうら
人のを見ぬまじつとに養ごとにならひ野中をうみをひ
さしてありうあの御つあのぶのごまをとりそれ
ぞれ伊勢よりでうしの子をとりあをとりあをとり
りあをそ今門氏敬とをうを弟とをしぼをの
とを詠をあをとをしぼ

伽羅子卷七終